

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを合わせて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	竜門堂グループホーム ことぶき荘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	佐賀県武雄市山内町
記入者名 (管理者)	小柳喜美子
記入日	平成 20年 3月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念を作っている。それを元に分かりやすい言葉で、自分らしい生活が出来られるようモットーを作り支援している。</p>	
<input type="checkbox"/> 2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を毎朝の申し送り時に唱和し、またホーム内の要所の掲示して理念の実践に取り組んでいる。</p>	
<input type="checkbox"/> 3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>理念、モットーをホーム内に掲示してご家族、地域の方へ理解して頂くようにしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ご近所の方には、こちらから挨拶をしたり話かけたりしている。通りがかりの方から花や野菜を頂くこともある。</p>	
<input type="checkbox"/> 5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の一員として交流しているとはいえないが、ホームの行事に地区の役員の方を招待したりしてことぶき荘を意識付けしてもらっている。</p>	<p>○ 今後も荘の行事などの招待して、ことぶき荘を分かってもらい交流に繋げるようにしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今のところ実施していない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価された事柄を真摯に受け止め、ホーム便りの発行、入居者様が一人で過ごされる為の空間作り、暖かみのある表札など、これまでに受けた評価を生かし改善に取り組んでいる。	○	今後も評価によってうけたアドバイスなどから、よりよいホーム作りを目指し改善に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域、ご家族、行政、法人などが参加されるので、ホームの現状をお知らせする良い機会と捉えている。そこで出してもらった意見を参考にしサービスの向上に生かしている。	○	ホームの行事をご家族が参加されやすいよう休日に実施するなど。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	なかなか行き来する時間的な余裕がないが、電話による連絡は取っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護や成年後見制度については研修で学んだ。そういう必要な方と関わったことがない為支援に繋がっていないとはいえない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	さまざまな研修で暴力だけではなく、無視、ほったらかし、食事を与えないなども虐待であることを学んだ。荘内では、入居者様の身体の状況に目を配り、また職員の口調にも注意払っている。言葉のかけか方についてはおりにふれ、感じの良い話かたができるように話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を元に、利用者、ご家族へ管理者が説明している。説明後には疑問点がないかお尋ねしている。後日尋ねられることもあり、その都度説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方からの不満は多い。不満をだして頂けることは良いことだと受け止めている。不満を外部者に出す機会としては、介護相談員の受け入れ時ゆっくり話せるよう配慮している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態については面会時に説明し、面会が少ないご家族については電話連絡をしている。金銭管理については、面会時に出納簿と現金の確認をしてもらい、1年分の収支と、領収書をお渡ししている。職員についてはご家族が来荘された折り紹介している。	○	職員の異動については、今後ホーム便りなどでお知らせしていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来荘の折り管理者が聞くようにしている。玄関に苦情受け付け箱を設置し、そこを利用して頂くようにもお話している。また、公的機関のこともお知らせしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から管理者に対しては、ミーティングの時に聞いている。それ以外にも、いつでも言ってもらっている。運営者に対しては管理者が法人の事務長を通して言ったり、直接言って反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤帯3名、朝、夕方2名の職員を配置している。またその時々状況に柔軟に応じられるようパートの職員もいて、入居時や入居者様の状況に合わせて勤務している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来の職員が4名いる。結婚による退職と法人への研修目的の異動が2名である。新職員が入ったときは入居者様が混乱されないよう、前からいる職員と勤務をするように配慮している。認知症の方との馴染みの関係が大切だということは法人の理解もあり異動は極力抑えて貰っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に教育委員会があり、勉強会や研修などの計画がたてられていて参加している。また全国認知症フォーラムなど他県への研修に参加する場合は、研修費用の全額を負担して貰い個人の負担なしで勉強できる機会もある。その他個人の希望の研修には休みを組むように配慮もしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に入っており、その研修や勉強会に参加しているんな話を聞き参考にしている。近くの施設から見学や、入居者様と関わったケアマネジャーなどの訪問もあっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦をかねた食事会、2年に1回の法人の職員旅行、院内ミニバレー大会などがあっている。法人にはバレーのクラブもあり、荘の職員も入っている。調子の悪そうな職員や元気のない職員には管理者から声をかけ悩みや意見を聞いている。お互いがなんでも話せるような雰囲気作りを心かけている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	タイムカードの確認、職員のレポートなど目を通されていて、日頃の勤務態度などもよくみられている。それによって職員の配置や昇給に繋がっていると思う。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前にグループホームの見学に来て頂き、お話を聞くようにしホームの雰囲気など分かってもらおうよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族だけで、ホームの見学にこられたお困りしていることや、入居にさいしての不安などをお聞きしている。家庭での介護の大変さをしっかり受け止めるよう努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入居ということではなく、デイサービスやショートなどの利用もあるということをお伝えし、家庭でどうしても無理になられた時に入居を受け付けるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居された際は、安心して過ごして頂けるよう職員が傍に寄り添い、他の入居者様や、荘の生活に慣れて頂くよう配慮している。また、ご家族に入居された当初は面会に度々来て頂くようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来られることは見守り、励ましながら、職員が手をだしすぎないケアを心掛けている。諺や生活の知恵、昔の風習などお聞きすることもあり良い関係が築けていると思う。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子など面会時などお話しするようにしている。面会に来られないところには電話にて報告している。入居当初には頻回の面会をお願いし、また、ケアに関してもご家族に意見をお聞きするようにして関わっていただくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人、ご家族それぞれにお話を聞きそれぞれの思いを理解しようと努めている。面会時はご家族だけにしたり、会話の少ないご家族には職員が同席してお話をされるようにし、いい関係になるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら関係が途切れないよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良くなられた方、気の合う方、気の合わない方との関係の把握をし、同テーブルにするなどの配慮をしている。全員の方がいい関係を築かれるよう座られる位置を変えたりと工夫もし孤立されないよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居され入院された利用者の方には面会に行ったり、また家族の方のなかには度々電話をかけられる方、ホームを訪れる方などがおられその方たちとの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や日頃の思われていることなどを、日々の会話のなかから把握するようにしている。傍に寄り添いお話をすると、どんな事を思われているかが分かり思いを尊重している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時本人やご家族からお話を聞いて生活歴などの把握に努めている。また入居後、日々のお話のなかからも把握するようにし、ホームで生活される際の参考になっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	これまでの過ごし方、暮らしぶりをお聞きし状況の把握に努めるが、実際には入居され、荘での生活ぶりからその方の心身状態、残された力の把握に努めている。先入観をもちすぎないよう職員全員で努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様で希望が言える方には聞いて計画に取り入れている。ご家族の方には面会時に聞くようにしている。計画をたて説明しご家族の意見を書いてもらうようにしているが、それが計画を立てたあとになっていて必ずしも反映しているとはいえない。	○	今後、ケア会議を開催するときはご家族の参加を得よう呼びかけ、必ず出席して頂くようご家族の都合に合わせ開催するようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施機関を6ヶ月とし計画の見直しをしている。職員の受け持ち制にしているが、計画の見直しを期間内に出来ない職員もいる。状態の変化についての見直しはできていると思う。	○	今後は期間内の見直しが全職員ができ、またご家族、関係者との話し合いをもち計画を作成するようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日を通しての生活の様子は個人の介護日誌に記録し、ケアに関しては個人のケア記録を作成し記録している。全職員が情報を共有し計画の実践や見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	荘側の都合より、入居者様、ご家族の要望を最優先し柔軟な対応が出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	文化祭見学、唱歌を歌う会への参加などことぶき荘から出掛けていく支援をしている。荘としての各機関との協力とまでは出来ない。	○	今後警察、消防などへことぶき荘をアピールしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを受ける支援は現在のところ行っていない。ただ、リハビリが必要な方には、病院、主治医、理学療法士などと協議し支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ必要とする方がいらっしゃらないため協働していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様は地域の方だったり、大野病院を退院された方が多く、主治医は法人の医者で前からのかかりつけの医者である為、適切な医療を受けられている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体の医療機関の医師が認知症に知見があり、大野病院には精神科の医師もいらっしゃるのので、相談にのって頂いたり、助言を貰っている。必要な時は受診できている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ほとんどの入居者様が竜門堂医院を受診されていて、入居されても引き続き受診され看護師とも顔馴染みである。また、同法人内のため、荘側から気軽に相談できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者様が入院された場合は、職員がお見舞いに行ったり、病院関係者との情報交換もでき、入居者様が安心して療養されるようにサポートしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化された場合の最優先はご本人の気持ちを大事にすることと思っている。その為にご家族、医師などと話し合い、医師の指導のもと職員一体となり支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで出来ることと出来ないことの見極めを具体的にご家族にお話し了解を得ている。医師や看護師と24時間の連携をとり、少しの変化も報告し、指示をもらっている。また変化に備えての検討や準備も職員一同情報を共有している。連絡体制も整えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族に今後の生活の注意点などの説明を行い、施設、病院には介護連絡表を添付している。また職員が付き添っていきける場合は、そこのスタッフに口頭による説明もして入退居によるダメージを少なくするよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様一人一人に応じた対応が来ている。仕様の合わない言動や行動にたいしても職員が受容し合わせることができていて、さりげない支援ができています。介護の記録は日常の行動や変化、気になった会話、職員の関わりなど具体的に記録している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	職員が手を出しすぎないよう、傍に寄り添い優しい雰囲気、入居者様の思いを大切にしながらも何う姿勢で接している。出来ない方には職員が付き添いさりげないサポートをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の職員側の決まり事はあるが、家だったらとの意識を持ち入居者様の意志に沿うようにしている。何事も入居者様優先で支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で選んで着られている方は褒め、季節感のない服装をされている方は、さりげなくながして着替えられるように対応をしている。また入居者様と一緒に服を選び支援している。髪染めやパーマを希望される方、行きつけに理容院に行かれる方それぞれに支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い季節感のある献立にし、野菜刻み、盛りつけ、食後のお盆拭きなど、入居者様の力に応じたお手伝いをして頂いている。食事時には音楽をながし、職員も同じテーブルで食事をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	荘主催の敬老会で、お酒を出したことはあるがそれ以降たばこやお酒は出していない。飲み物やおやつは皆様同じものになっていることが多い。時々、ご本人も希望でおやつを代えたり、飲み物をコーヒーや牛乳に代えることもある。また好きなおやつを自分で購入し楽しんでいる。	○ 荘内で、たばこやお酒との考えを持っていなかった。今後、取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様全員がトイレを使用されている。ポータブルトイレも夜間のみとし、排泄が自立されている方以外は排泄チェック表を作成して、排泄パターンを把握し誘導をしている。その方に応じた尿取りパットやトレーニングパンツを使ってなるべくおむつを使用しないよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後に入浴して頂いている。1番に入浴したい人が多く順番を決めているが、なかには遅めの入浴を好まれる方もおり希望に沿うようにしている。入浴時間も体調に合わせてゆつくり入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中での活動を心掛けているが、どうしても眠れないときは無理に休ませず、デイルームでお話したりして眠くなるのを待つようにしている。基本的には、眠たいときに寝て頂くを職員全員が実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々のお話のなかから、若い頃の仕事、好きなことを聞きそれを参考にして調理のお手伝い、盛りつけなどその方に合ったお手伝いをして頂いている。歌が好きだった方はカラオケで皆様の前で歌われたり、ゲームを楽しまれたりとその方に合った支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお小遣いを持ってある方が二名おられ、訪問美容の支払いをしたり、また買い物に行った時は自分で財布から払ったりされている。職員はさりげなく支援するようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	荘の周辺を散歩したり、食材の買い物と一緒にいくなどしている。荘の周辺には店がなく大野病院の売店に行ったり、知り合いの方のお見舞いに行くなど希望に沿うようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族とともに出かけられる機会作りはできていないが、ご家族の面会のおり一緒に外出されることはある。	○	黒髪神社のおくんち、流鏝馬見物、初めて見たと喜んで頂いた。今後はご家族の方にも参加して頂けるような計画をたて支援に繋げたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話を自分でかけられる方は一人で自由にかけられている。番号を押せない方には職員が番号を押して話して頂くようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は入居者様とゆっくりして頂けるよう居室へ案内したりし、お茶などをお出ししている。職員は、笑顔でお迎えし、帰られる際には感謝の気持ちで見送っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し身体拘束の悪影響を職員全員が認識している。身体拘束をしないケアが出来ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放し、出入り口の施錠もしていない。施錠することより、いつでも出られますよというケアに全職員で取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に日勤夜勤の区別なく一人は必ずデイルームにいるようにし、入居者様の把握に努めている。居室で過ごされている方は、さりげなく言葉をかけに行き把握するようにして安全面の配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、針など保管場所をきめているが、施錠はしていない。徹底して目につかない場所におくのではなく、目を逸らすような取り組みをし、職員がさりげなく見守っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告や事故報告書を書くように職員に徹底している。事故発生時は主治医、法人代表に速やかに報告し、また大野病院の安全対策委員会へも参加している。再発防止のための話し合いを職員間で行いサービスの改善に繋げるよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的訓練とはいえないが、申し送り時やミーティングなどでおりにふれ話している。ほとんどの職員が、急変時や応急手当ができる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難の訓練は、入居者様とともに行っているが、地域との協力を得るような働きかけができていない。母体である大野病院からの協力は得られる。	○	今後地域の消防団などに働き掛けを行いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居される際はもちろん、日々の面会時に現状をお話し、リスクについて考えられることを説明している。その上で残された力を発揮して自分らしく生活されるようケアにあたることをご家族にお話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食欲の減退、ご本人の訴え、いつもとの違い、体重の変化などから体調の変化や異変を察知できるよう心掛けている。その日の勤務者はもちろん夜勤者にも口頭で申し送りをを行い、なおかつ介護日誌、バイタルケア記録に期録しているので情報の共有ができ対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬の説明書を個人の介護日誌に綴じ、用法用量が分かるようにしている。また、薬剤ノートへ服薬されている薬の記入もしていて症状の変化を把握するよう努めている。誤薬や与薬忘れがないように服薬介助をした後、二人の職員で間違いがないかチェックをしていて、医師の指示通り介助ができています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の状況を把握し、野菜を多くとれるよう献立に配慮し、水分も多めに飲まれるよう促している。毎朝のラジオ体操、腹部マッサージなどで自然排便を目指している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを実施している。自分で歯磨きができる方でも、磨き残しがないか確認し必要に応じ職員で磨くようにしている。義歯の方は、職員が磨きその後を磨かれたり、うがいをしたりされる。また、歯ブラシやコップは天日干しするなど清潔を保つようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉魚野菜などをバランスよく使った献立にし、咀嚼、燕下状態の悪い方には一口サイズに切ったりしている。菓との食べ合わせ悪い方には、他の物に代えたりし、量もその人に合わせている。また、ケア記録に食事量、飲水量を記録し支援に繋げている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策については母体である大野病院の感染マニュアルがあり実行している。食前、外出後の手洗い、天気の良い日には布団を干し、インフルエンザ予防注射は入居者様だけではなく、職員も全員が接種している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は毎食後ハイター消毒し、まな板包丁は毎日熱湯消毒をし、冷蔵庫内の清掃も行い衛生保持に努めている。食材はなるべく使い切るように工夫し、野菜は地域で出来た新鮮なものを使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の内外には、季節の花の鉢植えやプランターをおき、表札は木の温もりあるものにしてている。誰でも入りやすいように玄関はいつも開放し配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所用品、電気製品、浴室など一般の家庭と同じものを使用し家庭的であり、ダイルームは畳敷きでゆったりしている。ダイルームには季節毎の絵や貼り絵などを掲示し、洗面所、玄関には季節の花をいけて季節感をだしている。日射しにはカーテンなどで工夫し、テレビの音は高めを好まれるが、高すぎる時は職員で配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイルームには炬燵、3人がけようソファ、安楽椅子、家具調ソファなどを配置している。入居者様それぞれが自由に過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品、家具、ご主人の写真、仏壇を持って来られている方もいる。ご自分で整理出来る方には、職員が余り手を出さず入居者様が自分の部屋として自由に過ごされるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の清掃時には必ず窓を開放し、天気の良い日は居室の窓を開けて換気をしている。トイレの臭いが気になるときはEM菌を散布し、臭いや空気の淀みがないように配慮している。温度調節も入居者様に合わせている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、デイルーム、トイレ、浴室など必要な場所には手摺を設けている。浴室は介護用品を使用し安全面に配慮している。荘内はバリアフリーではなく、段差などがあるがそれが生活リハビリにつながり、身体機能の向上に役立っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	あえてトイレ浴室など表示せず、言葉かけにより教えるようにし、自然に覚えて頂くようにしている。居室の表札は、ご自身に書いて頂いている。また、尿意のない方は、排泄チェック表を活用し失敗なく排泄されるように時間毎に誘導するようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダはないが庭が広い。玄関周囲にプランターの鉢植えをおき水やりや草むしり、散歩などを楽しませている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ことぶき荘は元結婚式場だったところを改修したものである。なかに入れば広い畳敷きのダイルームがありゆったり過ごせる空間となっている。各所に段差があり、それが生活リハビリに繋がって入居者様のADLのアップに役だっている。職員も年配者から若い人と、入居者様の子供、孫の年代であり毎日を和気藹々と楽しく過ごしている。